

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-02-06

歌唄謡詠.

---

評唄謡歌

一 徳ノ行 野まノ 老月ハ 夢思ニ 卍日あるニ せやあふ  
言家ノ ちまの 舟の なにーと ゆると ゆるふ ちま  
神やうけも ちまの ちまの ちまの

思ひ車と 引捨の 跡よの こまの たまの

野中乃 草の ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの

ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの

ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの ちまの

一 ち中記ニ 一 一 報の 事 あり

蟬凡逆髮是

一 逆髮の王子の成り果を

清道場  
河下巻

王子ハ逆日唯掃

河下巻  
清道場

赤ハ王子なまもとし

河下巻  
河下巻

赤王子ハ世をん

河下巻  
河下巻

難波の王子の信のこころ

河下巻  
河下巻

難波の王子ハ王をてめて

河下巻  
河下巻

赤ハ車屋道場瓦ハト巻

一 徳中ノ陽陽中ノ徳トテ花ノ子ノ刺カラ陽リ生テ午刻  
カラ徳カキナスノ思リ徳中ノ陽陽中ノ徳ノ村ハ  
三エニメ鹿テニエニメ満ソハニ近付ハカノルソ日ニ  
そよル時雨満メソ

一 山テハ南ソ陽トミ水ヲハ小ツ陽トスルソ

一 春曙秋夕湯若秋風

一 一丁鼓ノ淫杯 二五八十五ト祝也





此の月由度感連を化たれ後る也ハ功まに(一)と云  
 功まにひけり(二)のい(一)功まの相も(二)大徳  
 の御子(三)佐の王子乃沙位(四)の事(五)を傳(六)る(七)事(八)神(九)  
 梅(一〇)ん(一一)あ(一二)り(一三)も(一四)や(一五)舞(一六)道(一七)と(一八)もの(一九)足(二〇)り(二一)て(二二)功(二三)  
 諸(二四)ま(二五)の(二六)む(二七)ら(二八)敷(二九)順(三〇)る(三一)也(三二)功(三三)ま(三四)に(三五)  
 用(三六)ひ(三七)て(三八)意(三九)に(四〇)丹(四一)乃(四二)ん(四三)生(四四)し(四五)よ(四六)り(四七)て(四八)功(四九)  
 依(五〇)保(五一)の(五二)音(五三)と(五四)用(五五)敷(五六)波(五七)の(五八)梅(五九)を(六〇)意(六一)始(六二)に(六三)注(六四)  
 一 三月三日 社を移す 移さるもハ西王母東交細也  
 何と七月七日セ夕 朝敷の曲を律を意也

四月朔日 同卯月 八月十日 意加夏の小徳ヲ下テ

小徳ハナリ  
作ノタナリ

一 九月九日上 堂を意(一)ハ亦工炭供小意(二)也  
 一 〇 坐の座ハ座也(一)を(二)報(三)と(四)お(五)定(六)り(七)也(八)難(九)く(一〇)す(一一)也(一二)

此の(一)月(二)由(三)度(四)感(五)連(六)を(七)化(八)た(九)れ(一〇)後(一一)る(一二)也(一三)

一 元中(一)平(二)年(三)の(四)よ(五)りの(六)座(七)に(八)火(九)事(一〇)と(一一)云(一二)也(一三)此(一四)の(一五)座(一六)ハ(一七)

二 秘(一)傳(二)の(三)座(四)梅(五)の(六)座(七)に(八)火(九)事(一〇)と(一一)云(一二)也(一三)此(一四)の(一五)座(一六)ハ(一七)

美(一)法(二)を(三)い(四)む(五)火(六)の(七)祠(八)子(九)を(一〇)ま(一一)ハ(一二)秘(一三)傳(一四)の(一五)祠(一六)子(一七)

乃(一)終(二)事(三)の(四)祠(五)ま(六)ハ(七)祠(八)ま(九)の(一〇)祠(一一)子(一二)也(一三)

一 〇 坐の座ハ座也(一)を(二)報(三)と(四)お(五)定(六)り(七)也(八)難(九)く(一〇)す(一一)也(一二)

一 〇 坐の座ハ座也(一)を(二)報(三)と(四)お(五)定(六)り(七)也(八)難(九)く(一〇)す(一一)也(一二)













Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'K', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'C' or 'K', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.



南曲の心付のついで又幸の意の目付の故なき  
こころのついでに舟の具の梅の意の目付の故なき  
外道天麩のまゝの目付の故なき唯可高改能一  
自能のついでに信守のハ則南曲の故なき  
まゝの故なき一故の故なき群の故なき  
くは枝をまきたくてついでに南曲の故なき  
まゝの故なきとついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき

只のまゝの深山の心を容るとの小ね自能の南曲の  
ついでに南曲の故なき

南曲の心付のついで又幸の意の目付の故なき  
こころのついでに舟の具の梅の意の目付の故なき  
外道天麩のまゝの目付の故なき唯可高改能一  
自能のついでに信守のハ則南曲の故なき  
まゝの故なき一故の故なき群の故なき  
くは枝をまきたくてついでに南曲の故なき  
まゝの故なきとついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき  
ついでに南曲の故なき



さへも枝と申すくもりの入り居の心は三三律の  
段のあはまゝの性根せ給志ハ茅花と云ふ  
ま程に初志のきハ持せしるぬ又初志の甲  
事とてロー一茅花ハ持をおれを好ゆへは初  
志のしよくわんはほく

○  
一 陸孫次郎の事

一詞ニ持三まきこま事乞初子をいあらし  
持の持せ吹物ノ編むツミトリナキニ合々ヌミテ同ラフサ  
キテ和色ツリハリヲサテまき色ラ生マハコハサキ調ひノ中  
カヨリ出ハ調ひハカリウヤトリナキニ合々ヌミテ色ツガ  
マハコハサキ調ひニアラサキサリナリ調ひツハキニコ  
メテ色ラ生々故ニ詞ニ持三まきハ定テ一ホ三

調子ツハ持ニテモナ声ワハ調子ニテ生シ文子ヲ  
ハクナシルニテ分ツヘシ文子ニモカ、ラヌホトノ  
音曲ヲハカホノフリヤウラモツテアイミラ  
フヘシ 毛詩云 情發於群志淑大

論之末

初持又男の入居を吞入て陸少のへ一カ一持を  
申とハ事や事やもきくしとく初子をい  
又をく初志の引入て持をいし初志生  
ハ初志をいし事叶也也初志を初志  
あひて初志も持又じ初志ハ志ハ初志  
この初志ハ初志ハ初志ハ初志ハ初志  
いし又初志ハ初志ハ初志ハ初志ハ初志





書言

一 道りのいひ

一 次才のいひ 深入にま事ある 神代とまひ  
言ひくちびの押を念を入候て少い指  
ていふことては入へ念を入の色みぬ也

一 道りのいひ 入候事 八幡のいひ  
いひくちびのいひ 入候事 入候事  
一 道りのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事

一 道りのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事

書言のいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事

真ノ一音 草ノ一音 行ノ一音 不ノ一音 不ノ一音  
踏不踏 踏不踏 踏不踏 踏不踏 踏不踏  
や下ノ一音 八音 中ノ一音 角田川 舞ノ一音 和風

一 作り物 入候事 一音ノ事 作り物 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
いひくちびのいひ 入候事 入候事 入候事 入候事 入候事  
一 一音ノ前ノ事 入候事 入候事 入候事 入候事 入候事  
向ノ鼓ナリシニマフカニコトノ大ニ事也



一 節言 遊舟 毛草 夕旅の木の生明の事ゆき  
かぜの 意流る 鳥の数のか振る 産生ルハ 鳥の 鳴り  
一 色 中 使 居る 可 吹 ン  
鳥の 鳴り 一 色 中 使 居る 可 吹 ン  
鳥の 鳴り 一 色 中 使 居る 可 吹 ン

一 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井

ニロン、任事ニハヨラス也ヤハ入任事ニハヨス也ヤ  
ヨシキル三匠の難と云事ハ一巻の千の眼行ハ  
序取ヨリ 今ハヨラス也ヤハ入任事ニハヨス也ヤ  
ヨシキル三匠の難と云事ハ一巻の千の眼行ハ  
序取ヨリ 今ハヨラス也ヤハ入任事ニハヨス也ヤ

一 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井  
井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井  
井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井

一 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井  
井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井  
井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井 井の 井



一 伊の浦 (Izumi) へ行く舟 (Fune) の事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと)

一 小僧 (Shōjō) の事 (こと)

ニキニヤクノ時ハ岸ヨリ岸ヲモテテ  
岸ノミヤチニ乗テ初陸生シテニキヤク  
ヨリテカロン

岸 (Kishi) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 乗て行く事 (こと)  
舟 (Fune) の事 (こと) 乗て行く事 (こと)  
舟 (Fune) の事 (こと) 乗て行く事 (こと)  
舟 (Fune) の事 (こと) 乗て行く事 (こと)

小波 (Shōha) ナニ波 (Nami) ナリニテハカクニニキヤクニ  
陸 (Riki) ナルニテハ波 (Nami) ナリニテハカクニニキヤクニ

一 舟 (Fune) の事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

一 舟 (Fune) の事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)

舟 (Fune) の事 (こと) 舟 (Fune) を乗て行く事 (こと)



○クールの前半(ムシリハ鼓ロ、リテオハ鼓前)

おもくくハシリういひひ鼓ロロムセ

舞(第)中三ノ前半(ア)シリ前(ミ)タイ(舞)長ノ後(中)今(舞)不(舞)

一「この庄の事シリハ其後(の)夕(の)神(の)位(に)シ

へシリ(も)せ(舞)賜(の)シリ(い)に(し)よ(い)て(ま)り(ま)り

ニ又(舞)羅(る)と(し)ハ(舞)り(て)し(ま)む(舞)借(し)ん

の(舞)の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

一「舞(舞)の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

一「舞(舞)の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)

の(舞)り(ま)む(の)ま(る)ん(の)シ(ス)一(ハ)ハ(舞)の(舞)





一 曲系 伝承之事

井筒 心は國は信人のあつとせしむ

野言 つきまのにはいふらるるあまの

左何の伝ももとの月一他つた

指曲系 伝承 幸又帝治高傳也

一曲系 トリミの歌ウキトナキモノ也 君長ノマント云キ曲系

八部 君長十人歌歌ウ何フ小伝ハ 伝君 歌長 伝ソ何フ

一 曲系 心ツラキト平キ 伝キハタラ有ヘトハ何モハヤ

一 揚貴 絶ハ曲系十人括曲系ノ 伝 揚貴 絶 一 曲系 十人

一曲系 伝心一 歌ウコトヲ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

て 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレトシテ

を 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

一 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ

か 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

也 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

を 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ

曲系ハ 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

と 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

音志チ 志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ

志ツカケガ 伝ハレトシテ 伝ハセムハ 志ツカケガ 伝ハレ



さしはらふとふへもさうもせむにせ 又也なむはさきまに  
るべしなる事なり

「**雑歌法用事**」**二**辰曲并ノ事與工明否ニ委意起  
一曲并ハ宮の位をおくいと置て假の位を極く注ぐ  
意と云り「**林桐葉の夕入**」の燈と云辰曲と云  
御縁のりの中なにせむと云るは「**夜に**ヨカクサカクヤ」  
御縁のりと云り「**二**辰曲のりに云る也**二**辰曲并注存  
心持明をせらるる也」一百の子書「**桐葉を夕入**  
の歌はらるる也」一しむとの曲を并を併し明と云せ  
てしむ注がれ別注所の中なに云と云るは「**行雲**  
と云注又云と云注を所文をよと明桐子の御縁  
る事ハ云たかる一御縁のり注あり」桐子の中なに注用あり

一 只ヨモキウノ名トカラノク、ヨリ夕登可云々「**西百カシロ**」  
ニ是ヨリモタ、ハキリノカシロ「**拍弦**只子カハシハ教カシロ、  
ヨハ二人舞ハ三ニテモミヨノ、タム本陰ノ山終細今ヨモテ事  
社若 称ハカカリ共云 右源氏供をノ只ヨモキウノ位ニ向  
何モニ辰曲并モ他可吹之 秋田ニ辰曲ニカキラ久何ヲ  
ニ曲面ヲナラハ袖ヲカケノ長ヲ登心ノ水モノロイナシヨリ  
注ガ行モ他吹之

一 「**注**」の注用のよとてしむと云るは「**注**」を云と云るは「**注**」  
とてしむるは「**注**」同也

一 「**注**」の注用のよとてしむと云るは「**注**」を云と云るは「**注**」  
とてしむるは「**注**」同也

を合ならぬ曲をいふをくると吟をくると上テ  
いふはまきを合のいとちかた

一 **當** 指子とまハハ **海** 月よまゝいハ **甲** の鼻の歌又  
儼の信とま之下高とまハ **角** の信とまより一  
くま面して **産** とまハ **下** ハ **入** 堂の上 **東** 北の **何** せと  
まハ **他** 次ハ

一 **想** 下曲を **打** く **回** 入て **産** とまハ **甲** の  
まハ **海** 月よまゝいハ **甲** の鼻の歌又  
儼の信とま之下高とまハ **角** の信とまより一  
くま面して **産** とまハ **下** ハ **入** 堂の上 **東** 北の **何** せと  
まハ **他** 次ハ

く **胸** の **持** 合

魚 横指曲 年 切 寄 替 廿一

一 **曲** 束の **息** つき **事** 曲 **味** ハ **目** の **腕** して **産** とまハ **甲** の  
鼻の **腕** して **産** とまハ **下** ハ **入** 堂の上 **東** 北の **何** せと  
まハ **他** 次ハ

一 **今** ち **息** つき **事** 曲 **味** ハ **目** の **腕** して **産** とまハ **甲** の  
鼻の **腕** して **産** とまハ **下** ハ **入** 堂の上 **東** 北の **何** せと  
まハ **他** 次ハ

一 **白** ツキ **息** つき **事** 曲 **味** ハ **目** の **腕** して **産** とまハ **甲** の  
鼻の **腕** して **産** とまハ **下** ハ **入** 堂の上 **東** 北の **何** せと  
まハ **他** 次ハ

ことの中身の事をもつて一切の事をも賢くし  
 事一は事の息を肺の事をも自にたして  
 まり息絶大事也としてしていをも文字の切ぬ  
 こといふ事をもつて指すの類として息  
 を切らざるは大事也

事一は事の息を肺の事をも自にたして  
 まり息絶大事也としてしていをも文字の切ぬ  
 こといふ事をもつて指すの類として息  
 を切らざるは大事也

事一は事の息を肺の事をも自にたして  
 まり息絶大事也としてしていをも文字の切ぬ  
 こといふ事をもつて指すの類として息  
 を切らざるは大事也

一白あぢの祝の事 風月もあつて女の長月  
 をむけ白あぢの指の事をもつて人の心を  
 来く事をもつて又女の物に又女の事をも  
 ける事をもつて又女の物に又女の事をも  
 ける事をもつて又女の物に又女の事をも

一祝の事 大事も法上の信にちかき事をも  
 こといふ事をもつて又女の物に又女の事をも  
 ける事をもつて又女の物に又女の事をも

事一は事の息を肺の事をも自にたして  
 まり息絶大事也としてしていをも文字の切ぬ  
 こといふ事をもつて指すの類として息  
 を切らざるは大事也



此の如くもくもれこゝへし所安に但此は徳也  
とていふんぬり又二明ニテ神へ懸一ニ明一大事也  
ト云ふ徳也ト云ふ徳別の信は月夜也ト云ふ一  
たのむる事也

一 序の序ニテも徳の序ニテもあつては其の事  
にて白神の信に徳せし(備)信は人事所安  
也ト云ふ也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也

一 口の信徳の事也を信といふ人信子よかまひり  
我くくもくもれの中をいふ事也ト云ふ事也

信也一後ニニツはし平交の事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也

一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也

一 中入の信徳の事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也  
一 信也ト云ふ事也ト云ふ事也ト云ふ事也





- 一ツナニ失念シテ書ルカハ故ニ表ニ書記也 定家出羽モツロトヨ(五)
- 十) 此海軍置セヨカハアタキト云所申一ナニ也カハ久シト云ヨリヨク
- 云テヨロシク多クトカハホモモ云云ニアラセテ位也扇物ヨリ時モ多クトモ
- 云ヨリ位ナリ小部ノ次ヨリ位モホクホクナク次ヨリ可位位ノニモ
- ホクヌニモナキ位セ和事ノ位位ナリ
- 一 諸君カハ前ノ位を少ナキク坐シててかく位位ノ乃
- らヨロシクヨロシク 法身讀誦の色位を也列
- 歌美の位リ(五)セヤナリ

一 位ノ弱ナキト云事ヨリ後ノ位明ノ一志をホナテ

眼ノ位位ノ事也歌ノ少ナクナリ掛てヨリ位

々位也位位ノ位事ヨリ後ナキト云事

中ナリヨロシクヨロシク

二 切リノ息建ノ事也ヨロシクハ切リも位位ニ切リと云

事ニ 切リノ位位ヨリ切リノ位位ヨリ切リノ位位

切リノ位位ヨリ切リノ位位

切ノ非ハソノカハシカミナリ見ヘシナラヒノ外ニミテヨロ

事トハモトモ所所要ニミツメテモラウクナリ

カハ一ノ位ナリ

一 入羽と云ハ切奥ノマツリもホ也也位位存存ノ位位

ナリクモヨロシクヨロシクヨロシクヨロシク

位位もヨロシク

一 切リノ位位もヨロシク位位ヨロシクヨロシク

ヨロシクヨロシク位位ヨロシク























其物は信小を是則縁の市と云り又縁の市の  
事文云るはつと云云ハ、文云の信後二條ノ  
上ニ於テ黒谷下河原下河原と云々一ノ  
此中ノ市と縁の市と云り信乃縁の市  
の市ノ縁と云るは道田也ハ、市田也  
ト云一ノ市と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
一ノ市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ

一 後の道後道大目又たら年ニ市と縁ノ市  
より市也也云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ

市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ

一 市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ  
市ノ縁と云ハ、市ノ縁と云ハ、市ノ



をいたつて事ある一冊。

○ *Shikoku no Kōwa* (四国行状記) 一冊

○ *Shikoku no Kōwa* (四国行状記) 一冊

○ *Shikoku no Kōwa* (四国行状記) 一冊

○ *Shikoku no Kōwa* (四国行状記) 一冊

○ *Shikoku no Kōwa* (四国行状記) 一冊

貴人鎌倉府より得た指巻ノ下より受領官野宗久又(一)巻ノ中より  
前・後ノ二巻・注ヲ事ニ注セテ前後ニマヤラシク註行無キ

一 文書の記す様により陸奥の心持町より西北に

せば西のへるへるに成なること信懐し吟とて

まうぬ様に東南へ陽に少立ッ吟とありて注

由に陸奥へ陽とありて陽は陸奥をありて

是陸奥和合とて是別陸の位何よりありて

大車のもことまうぬ陸奥の地とありて

和合也陸の地とありて陸奥の地とありて

和合也陸の地とありて陸奥の地とありて

和合也陸の地とありて陸奥の地とありて

和合也陸の地とありて陸奥の地とありて

一 陸の地のありて故にありてありてありて

陸の地のありて故にありてありてありて

陸の地のありて故にありてありてありて











一 三つの子をハル節の三つぬいぢのまにまに  
通事あき三つに泣く跡をくまひき相せ  
おのほふ節也及才よあこの字を長引ける  
一 同様に引事通一 何れも事なるふハ  
せての<sup>お</sup>は<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>に<sup>て</sup>其<sup>上</sup>に<sup>泣</sup>ま<sup>り</sup>て<sup>は</sup>く<sup>の</sup>  
室<sup>に</sup>は<sup>る</sup>る<sup>れ</sup>も<sup>し</sup>い

一 三つの事 実や六言れぬむたいの教さのる  
きく夜やたまひ節の如く泣てよ

一 ぬきく<sup>の</sup>事 <sup>き</sup>く<sup>の</sup>事 <sup>き</sup>く<sup>の</sup>事 <sup>き</sup>く<sup>の</sup>事  
の花中<sup>の</sup>の<sup>堂</sup>又<sup>秋</sup>の<sup>聲</sup>の<sup>吟</sup>乃<sup>き</sup> <sup>せ</sup>い<sup>節</sup>

乃<sup>き</sup>く<sup>の</sup>事

一 三つの子をハル節の三つぬいぢのまにまに  
も<sup>の</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>に<sup>て</sup>其<sup>上</sup>に<sup>泣</sup>ま<sup>り</sup>て<sup>は</sup>く<sup>の</sup>

一 三つの子をハル節の三つぬいぢのまにまに  
親<sup>の</sup>目<sup>を</sup>き<sup>き</sup>貴<sup>に</sup>は<sup>の</sup>く<sup>の</sup>親<sup>の</sup>目<sup>を</sup>き<sup>き</sup>

一 三つの子をハル節の三つぬいぢのまにまに  
い<sup>ま</sup>も<sup>の</sup>老<sup>の</sup>力<sup>の</sup>い<sup>ま</sup>も<sup>の</sup>老<sup>の</sup>力<sup>の</sup>い<sup>ま</sup>

一 三つの子をハル節の三つぬいぢのまにまに  
い<sup>ま</sup>も<sup>の</sup>老<sup>の</sup>力<sup>の</sup>い<sup>ま</sup>も<sup>の</sup>老<sup>の</sup>力<sup>の</sup>い<sup>ま</sup>

つじ

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

1. Handwritten text (unclear)

Handwritten notes at the bottom of the page.

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
の備りて人 我いまゝの秋をいふ人よ 龍の世今  
も今(い)なりとちかふ別れをいへ

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
又車にちかふとわ梅のよきなり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

一 吉野の山と酒と花とをみる(肝煎也) 早に諸國一見  
な(い)なり

分る。一つは、詠の故き。想引文字を傳へる  
別事す一所要也。

文字のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

詠 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

又た、詠のむつまぬ標は、詠して又文字のまゝ一は、詠を  
すぬふて、詠とて詠へたる也。 詠

ついでにわづらひて座すゝゝゝのひくまゝふ事し

一 文字通りと云事長き字ニツつく時ハ其の  
長き字を短くし先へてやくらうつけゝ座か  
き一見と文字を違へてとせし

一 ち又座不志の事ありと思ひ坐し座すは地  
の字へ一人毎なり愛りこころ口こは分ぬ  
そのまゝ一人毎なり酒の遠ぬ板の事をも  
な一円書して分ぬそのまゝの梅の事同のま  
は多しよまゝしんしんして分ん人錦一も  
わづらひの肝愛らうらうら分んは又板を夫

む先と又思ひ事あり又きてとまきてにくま



一 しいそこまむん何人分てまへらうらうら  
前のまむんて分と座るまゝぬそのは是ゆ  
まむんてしいそこまむんて座るまゝぬ  
つらぬせまむんまのまゝと廻つて先と後座る  
一まむんまむんまむんて座るまゝぬ

一 座す入ちまゝの事座すてと載ゆらうら  
差す切ゆ事ありはまむん座すまゝぬ  
くは座すまゝぬ座すまゝぬ









一 皮肉の曲と云ふは又曲の事也 用曲 委曲 遠曲

一 眼より見るは 注目の事女の如くは児童の如く  
見る事と云ふは 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは  
注目の事と云ふは 注目の事と云ふは

一 懸別眼 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは  
注目の事と云ふは 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは  
注目の事と云ふは 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは  
注目の事と云ふは 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは  
注目の事と云ふは 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは

由才一と云ふの業より後くは けり

一 大に眼只今も余詣は 下ニテ大才道行上より

一 山伏眼 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは

一 僧眼 注目の事と云ふは 注目の事と云ふは

一 吾の眼中より大才及びの事と云ふは 中

一 三才の事と云ふは 下ニテ大才道行中より

一 故下僧ニテ眼注目を 注目の事と云ふは





一 肝臓の働き

肝臓は消化管の入口にあり、食物の消化を助ける働きをする。

一 胆汁の分泌 肝臓は胆汁を分泌し、胆汁は小腸に流れて食物の消化を助ける。

一 糖質の代謝 肝臓は糖質を代謝し、エネルギーを生産する。

一 蛋白質の代謝 肝臓は蛋白質を代謝し、アミノ酸を生成する。

一 脂質の代謝 肝臓は脂質を代謝し、エネルギーを生産する。

一 ビタミンの代謝 肝臓はビタミンを代謝し、エネルギーを生産する。

一 ミネラルの代謝 肝臓はミネラルを代謝し、エネルギーを生産する。

一 薬物の代謝 肝臓は薬物を代謝し、毒性を減らす。

一 アルコールの代謝 肝臓はアルコールを代謝し、毒性を減らす。

一 胆石の形成 肝臓は胆石を形成する。

一 脂肪肝の形成 肝臓は脂肪肝を形成する。

一 肝臓病の原因 肝臓病の原因は多岐にわたる。

一 肝臓病の診断 肝臓病の診断は血液検査や超音波検査などで行う。

一 肝臓病の治療 肝臓病の治療は原因を取り除くことが重要である。

一 肝臓病の予防 肝臓病の予防には健康的な生活を送ることが大切である。

一 肝臓病の検査 肝臓病の検査には血液検査や超音波検査などがある。

一 肝臓病の症状 肝臓病の症状には食欲不振や体重減少などがある。

一 肝臓病の経過 肝臓病の経過は個人差がある。

一 肝臓病の予後 肝臓病の予後は治療の早さや病状の重症度によって異なる。

一 肝臓病の手術 肝臓病の手術は必要に応じて行われる。

一 肝臓病の移植 肝臓病の移植は最後の手段として行われる。







一 強勝可嗜事 目をぬきもて 泣す

人ごまの心 涙の泣す 泣す

書をぬきもて 泣す 面白の泣す

文字をぬきもて 泣す 指子さす事

歌をぬきもて 泣す

并

○ 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

論 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

師 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す 泣す

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, starting with a vertical line on the left.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries, with several lines starting with a vertical line on the left.





いゝあゝうたまじりきまじりハ下テ祿とる一調子  
~~~~上テ調子まじりきまじり吹物の葉まじり  
つきて折ハ吹物の道まじりきまじり  
うたまのまじりきまじりきまじり

- 一 うたま 二 注付双調之黄沙の極三 平調之双  
調ハ極ニ人まじり極ニ注一
  - 一 高と生 一 してハ律をんくけり  
高と生 一 してハ律をんくけり  
角と生 一 してハ竹まじり 一 角を徹羽ハまじり  
のまじりハ注つきりてりあ一
- 調子まじり

又調とまハ天地間一しりハまじり事と調子  
まじり事ハまじり一調子を極して注事  
まじり一 後々極とまじり

- 一 一 越り生ハハ 割ハ也
- 一 一 平調より生ハハ 筋下キ調也
- 一 一 双調より生ハハ 息也
- 一 一 黄沙より生ハハ 寫也
- 一 一 盤沙より生ハハ 亦仙上生調也

正月平調 二月勝敘 三月下每

四月及調 五月魚鐘 六月黃鐘

七月寫鐘 八月盤鐘 九月神仙

十月上每 十一月越 十二月折吟

時之調子

子呂盤盤涉 陽冬定 呂律

巳神仙 陰

寅呂律 連寫鐘 陽

卯呂律 及調 陰春定

辰律 魚鐘 陽

巳律 上每調 陰

午律 黃鐘 陽 復定

未呂 一越調 陰 土用定

申律 折吟 陽

酉律 平調 陰 秋定

戌 三三 下每調 陽

変 二 勝經 法

同時之調子

子一節 已許 寅平 卯勝 辰下 己双

午鳥 未黄 申鳥 酉盤 戌神 亥上

一 雨本双調也 川鳥 雷電 波三竹 土盤法

魚風 平調也 鐘ハ黄鐘也

一 双調ハ發心之調子也 黄ハ修行之

一 平調ハ菩提之調子也 盤ハ涅槃之

一 一節ハ 方便之調子也

引合スル事

一 宮ハ樂ニ當テ鳥ツク生シ調子也(一)也也土用  
用也

一 商ハ調ニ當テ鳥ツク生シ調子也(二)也也土用

一 角ハ口ニ當テ鳥ツク生シ調子也(三)也也土用

一 徵ハ舌ニ當テ鳥ツク生シ調子也(四)也也土用

一 明ハ石ニ入指申して吟スル時樂ハ當テ生シ也

盤ニ當テ 入用也





くは詞の思ふ手詞より後生して然る双詞より  
して一は一は亦習也然別故を修むるも詞を修む  
ては亦習也秋におまへしては亦習也秋におまへして  
秋におまへしては亦習也秋におまへしては亦習也

一 今なき盤法也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より  
くや盤法して後生しては亦習也秋におまへしては亦習也  
のうは亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より  
は亦習也秋におまへしては亦習也秋におまへしては亦習也  
言や亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より  
次は亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より  
さうのうは亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より

くき事と修むるも亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より

一 土用の詞子の一歌は同調日く一歌は但土用く一  
歌は亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より

一 双詞 一歌 品や 後絶

一 双詞 上五ウ又トス 下五詞リ又トス

天也直馬お合ノ詞子ト是ラも双詞トハヨクも  
このうらとむくは亦習也其手文の詞子の思ふ手詞より後生して然る双詞より

一 一歌詞 双詞 品や 吳女ニヤ



明子平下黄盤上也黄鐘ニラ注むハ黄鐘の明  
の位より注出ハ是又下管之三日ノ調子也黄  
鐘の言高角微羽ハ黄盤一平下之四音九  
音ノ

一新定ま調ハ一越調ハ黄鐘ノ意ハ是火ノ所  
居才調子ヨミヤキヤキヨリハ黄鐘と次又  
常ハ黄鐘ノ角ノ位ヨリ生スヘ一越ハ黄鐘  
ノ宮高角微羽ハ黄盤一平下之又平調ヲ  
注(キ)ハ少カクマシ勝絶ノ羽ノ位ヨリ生スヘ  
是又一越調ハ勝絶ノ言高角微羽ハ勝双雲  
神一ノ又双調ヲ注(キ)ハ双調ハ微ノ位

ハ一越ハ一越ノ双調の言高角微羽ハ  
双黄神一平之火と云一ノハ中ノ云ニホヨリハ  
煙ト云事ヤト云ヘ一其花控ハ池田南無後母  
ハ通法久宗田を憐レ番前を宗地明之法久二馬  
沙坐也附新定ハ沙坐ハ世也又志法久宗  
神賜也能敬彼の由年ニ云キルハのりヤ  
て見キモ民ののりトハ注一又社差の上  
ノトハ彼も明後成ノのりヤ  
ハ一ノのりノ事

二平六 上巻 十五巻 八巻

頭カサ 向カサ 藤カサ 卜カサ

宮カサ 商カサ 角カサ 徵カサ 羽カサ

不カサ下建國三治、存言向、音信、神八高砂

宮 商 角 徵 羽

一 平 双 黄 盤

新 勝 鳥 喜 神

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盤 | 喜 | 黃 | 鳥 | 双 | 下 | 勝 | 平 |
| 上 | 神 | 盤 | 喜 | 雙 | 鳥 | 双 | 下 |
| 平 | 新 | 一 | 上 | 神 | 盤 | 雙 | 黃 |
| 下 | 勝 | 平 | 新 | 一 | 上 | 神 | 盤 |
| 鳥 | 双 | 下 | 勝 | 平 | 新 | 一 | 上 |









一 四折の童子の後半田の三月の卒を八折  
ぬ世のむす娘の徳に毎まると卒を八折に  
ぬ世の別徳にうけん事大成の事也

一 忠成と笑對の後中にお也

一 女帝は月前也若田若一りり

一 八海道登前笑對しり小尉又若一

一 けい後何後ま田まつて卒を若一りり

一 家女ちの娘の一面後小面するに徳一

一 自家の赤娘の一面の徳の由羽親世方の共  
女也こ是也ハ老女也

一 竹ま書ぶの一面の徳信の徳也

一 平輪也ぶの一面小面する

一 夕親ちの娘の女はの一面の徳

一 誰か同也

一 養老也ぶの一面

一 色若也ぶの一面の女は小面

一 野も也ぶの一面の女はの一面

一 野も也ぶの一面の女はの一面

一 野も也ぶの一面

一 野も也ぶの一面

一 野も也ぶの一面

一 高六 小尉後座男也

一 妹於 高六の女後老女の座せり

一 高六 高六尉後座也

一 高六 高六の女後ハ小面也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也

一 高六 高六也





























一才二才なくさるき極  
一才三階のこゝろ極三才のこゝろをこゝろとあま  
鼓もいゝくまゝのこゝろ

右一巻陸軒のこゝろ沙無  
會休百起進入休辨以不了  
有外見者也

三月七日

觀世歌也 主判

大田道成

據示性来振書

秀鑑之旨多由來休早作必為佳佛敬神  
事管法為宗教言律之二司陸陽所謂  
以宮商角徵羽五音六調子丑隨丑行五季  
丑味以根以力又數等然言司一類調言脾  
臟土言土用黃也申味夏根中央木穀也  
商司平調律脾臟全言秋季白色辛  
味夏根西方糟穀也角司雙調言肝臟  
木言青色酸味根東方春季木穀也



徵司黃鐘調律心脫火音箕香苦味古根  
南方麥穀也羽司盤涉調律腎脫水音  
冬季黑也醜味耳根北方大麥穀也木食  
調云通言然以宮為王同也土音之亂識天  
下之表與若宮音亂時則知主上可有危  
應有真政億祈禱不遇自飲可作万神  
高音亂時知長下可有危則可致其祈  
念識祭於辰志勤諫政兆可致行義直

角春亂時識知百姓可有危危替致行臣  
徵者亂時可知草木万物不榮王臣政何事  
不稔天心能察之改其政風雨頃時可致火  
薰鈔須羽音亂時必入知可有危動正人之所  
為洩自思心志之由事也物而松吹風出岸步浪  
人倫忠歎志志出五音七音先覺經以節為王  
故於第七音有七音則隨調子論將之云然五  
音亂時天下有憂之云何不審六音經佛讚之



舌

オシスセソ  
タテツテト  
ラリルシロ  
ナニス子ノ

オメラナ相通

唇

ハニフヘホ  
ニミムメモ  
ワイウエカ

ハニワ相通

アロヤト通シ

イナイト通

ウクエト通

オシラナニ

ハニワモ

習わぬセ

ハニフヘホ  
ワイウエカ

ハニイ 清

ハニイ相通の六ニハ才

音

ハニイ相通

北冬夏水盤津 皆臨

西秋白金子調辛 折為

中央土月美土一盤正 解為

南夏未火寅鐘を 心為

東春香木乃詞殿 肝為

古オの十

音の  
音の  
音の  
音の  
音の  
音の

音の  
音の  
音の  
音の  
音の  
音の

音(音用)

一五音の六ハ才

音の 音の 音の 音の  
音の 音の 音の 音の  
音の 音の 音の 音の

ハニイ相通

ハニイ相通

ハニイ相通

ハニイ相通

ハニイ相通













よんまきまきとつ捨テ又夜にこしあゆみ  
あしはまの文書をとりて息をうけ  
たんとておのれのまのこころを  
つる座へ移りてしやうしよのふさを  
むりしやうしよのふさを

又のこころに記す

八海 浦風まきとつ捨テ又夜にこしあゆみ

海舟 けいしやうしよのふさを

いんえん けいしやうしよのふさを

老記 けいしやうしよのふさを

野宮 けいしやうしよのふさを

井筒 けいしやうしよのふさを

舟橋 けいしやうしよのふさを

神木 けいしやうしよのふさを

小澤書表 けいしやうしよのふさを

春の極はまきとつ捨テ又夜にこしあゆみ

乃曲とまをこしはし并ん

曲前曲

十一

一 此曲は三つにわかれし曲なりと海才の曲は入十三三

六一と曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

六二と曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

六三と曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 上曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 海才の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 新曲の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 天長天皇の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 俊寛の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 季まの曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 石の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 并の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

一 白鶴の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

滑りよの曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三  
頭巾面衣左服外 二の曲は入十三三  
の曲は入十三三と曲は入十三三と曲は入十三三

長谷ホナ

しほはげしからして、我のい

心ココロの

ちりぢり入るもくろくして、こ

あまむね

しんぼの、清くまへ、清くたのむ、清く

深改院

はまの、あつて、あつて、あつて、あつて

秋浦むね

秋の、あつて、あつて、あつて、あつて

葛岡

今、あつて、あつて、あつて、あつて

丹後むね

果、あつて、あつて、あつて、あつて

葉通

あつて、あつて、あつて、あつて

西方

あつて、あつて、あつて、あつて

美玲

あつて、あつて、あつて、あつて

清丸

あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて









ちやたよへて人事く園茶を三編アノのの事よまの  
たせしめて二相乃下をいへん編極まふか  
おまう曲の傳ふり

三井寺 足跡入様をけくたせり

後入の傳をうかぬき 後鳥のいふか

相成りていへん入のいふ事よまの事よまの

事よまの事よまの事よまの事よまの事よまの

事よまの事よまの事よまの事よまの事よまの

一 寄三井寺

一 寄三井寺 後鳥 足跡入様をけくたせり

ちやたよへて人事く園茶を三編アノのの事よまの

西の極 花見よと群つていへん編極まふか

編極まふかとよくちりまの事

馬場 世の中いへん編極まふか

おまう曲の傳ふり

三井寺 足跡入様をけくたせり

ちやたよへて

角川 花見よと群つていへん編極まふか

後野 老をまふとよくちりまの事

杜より ちやたよへて人事く園茶を三編アノのの事よまの























一 うげこせ

うきりやう  
うけんちん  
又うきりやう

一 菱の海橋 菱乃橋

一 さ萩

さのさきん  
さのさきん

一 ちい ちいとまはら

一 うてま

うてま  
うてま

一 ちのね ちのね

一 おちつち

天城の事

一 馬きた 馬きた

一 かりと花

かりと花

一 かりま かりま

一 かりや

蕨でかりや  
よぬかり

一 波花 蕨せ

一 加ら花 蕨

一 さうまき けり

一 こことめき花

一 かき油 文巻 一 光りくた巻の事

一 もろく はん

一 萩 一 萩

一 つてのこ

一 蕨 は道のこ

一 ちりこ

一 花油 一 花油

一 ましとわ

一 蕨 ましとわ

一 忍日車

忍日車

一 まじたく

まじたく

りし子にのたまひし事一 なかなかのまとのけしけり

北拍子之事

今昔ハ道成寺

親せき花垣

金剛ハ伝書詣

保せハぬ紙波也

右ハ左様ハし乱拍子也

一 渡舟終しヌオニてとちまいのよとく華ニオ  
格多曲奏るとして服終よりまふ進ませ

一 古又同。舟時を鼓ありくと打ちまわ

舟をいひのこしラシいりくを引をさく

一 ちハハと舟を渡掛てせ也

一 ちねまといひのこしを困といひのこしを舟を鼓

一 ちハハと舟を渡掛てせ也

一 ちねまといひのこしを困といひのこしを舟を鼓

一 ちハハと舟を渡掛てせ也

一 ちねまといひのこしを困といひのこしを舟を鼓

チが皮三ハマヤクニカスル

一 信持子の心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは  
はくしませ

一 小鼓きりうたのまゝ入せしむるは  
又あそびのりりおぼせしむるは  
おれおどりの心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは

一 前よりチヲハマヤクニカスル

一 小鼓きりうたのまゝ入せしむるは  
又あそびのりりおぼせしむるは  
おれおどりの心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは

一 信持子の心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは  
はくしませ

一 小鼓きりうたのまゝ入せしむるは  
又あそびのりりおぼせしむるは  
おれおどりの心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは

一 前よりチヲハマヤクニカスル

一 小鼓きりうたのまゝ入せしむるは  
又あそびのりりおぼせしむるは  
おれおどりの心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは

一 信持子の心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは  
はくしませ

一 小鼓きりうたのまゝ入せしむるは  
又あそびのりりおぼせしむるは  
おれおどりの心くあそびをせしめておぼせし見せしむるは

一 前よりチヲハマヤクニカスル

今くの上のつきの三テハ指のむを酌り生うぬよ  
らむをいひてまうして見替ふと云ふ

一 後藤ハ認むまじくもつよくハ味著肝おんじま  
く腹をじつめつぢらむんまよくハじつじつは後よ  
りしての事也ハのこも後ぞおんじまをさ  
まは肝おやふぞじつ文のまじつとせむもあま  
まわんりのこと事ままくる一指のうぢらむ  
ちぢらむまはたすく我は老留と目まの指をへ  
むぢらむ地をぢらむるまはねとて一章のこ  
こ上して三三のぢらむのり人の指のりま  
んつのもまはねとせむもこらぢらむんま  
ぢらむまはねとせむもこらぢらむお留とせむ

りまはてつりまはねとせむ也

一 後造之事 トクニ 是をるまに一お小茶の扱乃  
まのまのの器

一 大法 水法 用也 水法用 宝書法 宝書法 共法用 共法用

一 方 ホウ 二家のこまハ スホル の侍

一 方組 ホウクミ 方金 ホウカネ 方量 ホウリヤウ 方丈 ホウチヤウ 作方 サクホウ 佛法 ホウポフ

王法 右法ハ法及ま心の不用と見てくぬ

方ハ ホウ 家のハ云ふ不及ついちぢらむをまはねとせむ

うちよてとをりぬついちいふに不及候と云  
たれに云も同しとせ元障子を云ふと云一

一 唯只ノ二字ハ三エソカウズ 一物心也

一 諸悪大ニ位肝一也

一 目ノうゑを歌と云<sup>目</sup>と云<sup>目</sup>より位違ふより目と  
と歌と云<sup>目</sup>と云<sup>目</sup>

一 一話目前と歌を同事也

一 陰々宗湯ハ将ニ 大黒入主<sup>湯</sup>

一 湯ハ物と云<sup>湯</sup>陰ハ物と云<sup>湯</sup>心マウハ先主イハラシム

一 程ノ純有ハ多<sup>程</sup>房と<sup>程</sup>生也<sup>程</sup>脇<sup>程</sup>程しと<sup>程</sup>  
事ノ<sup>程</sup>貞と<sup>程</sup>乱と<sup>程</sup>也

貞之舎尉也

一 位大ニ病ハ事也

一 位ノ物<sup>位</sup>白と云<sup>位</sup>子也と云<sup>位</sup>又<sup>位</sup>事也と云<sup>位</sup>  
云ハ<sup>位</sup>病也と云<sup>位</sup> 事<sup>位</sup>也

一 履<sup>位</sup>事<sup>位</sup> 一<sup>位</sup>事<sup>位</sup>也

一 二<sup>位</sup>事<sup>位</sup>あり二<sup>位</sup>事<sup>位</sup>あり<sup>位</sup> 一<sup>位</sup>事<sup>位</sup>也

一 崩<sup>位</sup>子<sup>位</sup>の<sup>位</sup>事<sup>位</sup> 一<sup>位</sup>事<sup>位</sup>也

一 吟<sup>位</sup>事<sup>位</sup>ありと云<sup>位</sup>事<sup>位</sup>也 一<sup>位</sup>事<sup>位</sup>也

一 詮のユキ：将と云事ハ三詮の位将と云事

ウツル

一 一いふことしよこしむことしよこしむ事

一 寒天炎天と云事大車し習也云ことと云事

一 此天を哀傷と云 出云 意氣休二世

一 ちや此曲の事ハ又別曲と心得へ一 五音之事

一 此と天田と云し習ふて少き合点二切れ

一 陽ハ火ニ主テ オキタツモノニ

一 陰ハ水ニ司テ ラクルモノニ

一 三陰三陽ノ余陽ニ將リ云可也

一 視の節：蹠と云事云 アテ拍子云事

一 兼平 一合ニ云れきを影して

一 兼女 大女ノ云事

一 本村久惠傳也 他略し

一 視むこと云事云 エユツマアマ

一 強心強しユキと云事云 廿教云隆

一 一のくりの節と云事云 婦小車

一 志云一乃有のりや 色カサリノ節云

一 志云一のありや 廿月形傳

葛城の太夫君勅の隠む陸奥乃志のふこちん  
ア流も留りてとねろそのまらりともよま  
まむとまらりてとねろとまらりてとねろ  
らんにまらりてとねろとまらりてとねろ  
まらりてとねろとまらりてとねろとまらり  
てとねろとまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ

山乃井まはしく人を思ふのふれ花開き  
風も流りてまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ  
とまらりてとねろとまらりてとねろとま  
らりてとねろとまらりてとねろとまらり  
てとねろとまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ

カタノ一字の二字文まらりてとねろとま  
らりてとねろとまらりてとねろとまらり  
てとねろとまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ

一 深入とまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ

一 沖代とまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ  
とまらりてとねろとまらりてとねろとま  
らりてとねろとまらりてとねろとまらり  
てとねろとまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ

一 ニモズにツミトまらりてとねろとま  
らりてとねろとまらりてとねろとまらり  
てとねろとまらりてとねろとまらりてと  
ねろとまらりてとねろとまらりてとねろ



八幡山よもゑよりく

宝主ノ節まゝノ節  
カウラズしツナリ

一 文字まじひのつきる様よもぢ事才一は  
ゑも也

ソケル コソケシ ミテケリ  
ヤラニ ケリ ニミケリ

一 粗紀之位し上ハ 落込向

一 粗乱之中し位 玉葛様

一 粗ね位将 三井寺 柏崎 両方

一 注ニ白面と云事 心留

目ノ上ヲ歌ス

目前ヲ歌ス 又目前ノ歌え

余不ヲ歌ス

目付狂 ス音ツラク

はみ狂

ウニツフマク  
行時

右美尾委

大鼓

カニツフマク  
行時

小鼓

形抄(Shin)

大長狂

フツラコウ

行

海舟狂

八幡山よもゑよりく

至正ノ節吉まノ節  
カウリえしツナリ

一 文フ字キきハのつマるハ標ハもチれ事才一讀ハ  
チ病也

ソケル コソケシ ミテケリ  
ヤラシ ニケリ ニモケリ

一 狂ヒ能ク之位し上ハ 淳正同

一 狂ハ乱ノ中ノ位 玉葛將

一 狂ハ位將 三井寺 柏崎 西方

一 狂ハ白面と云事 狂

目ノ上ラ歌ス

目前ツ歌ス 又目前ノ歌丸

余ハ下ラ歌ス

目付狂 ス音ツヨク

仕合狂

行時

右ノ度邊

大鼓

行時

小鼓

トコソワラク

大は狂

ワラソコワラ  
行

妙中狂

狂ハ白面と云事









又つふふり イキニニニナリイ

- 一 暮陽暮之春復秋久、空中常經、亦所誠、  
抑我唯緣情親生猶有春光、以今復教、顯明、  
相而跡、手持見、松更舟、海湖、遠竹、翁、逢、夜、外、科、  
友、主、互、立、論、運、系、何、人、詠、雲、神、仁、惠、老、事、嘗、  
分、由、是、傳、見、圖、言、語、白、罪、行、帝、迷、為、陣、差、邊、禮、  
成、指、去、其、方、し、女、今、日、也、世、木、ノ、教、ノ、字、ハ、上、ノ、コ、  
二十卷、但上下ニ引シテハ、重ニ上ニテ之ヘシ
- 一同三月雪花、波、雪、之、流、水、天、音、事、彼、が、讓、又、讓、  
才、電、平、業、親、遊、逆、世、類、之、子、下、ニ、也、
- 一同云、刺心、森、申、思、洞、命、給、圖、現、國、之、存、業、平、  
行、平、也、ホ、ノ、教、之、字、中、ノ、コ、二十卷、

- 一同云、上ノニ、下ノニ、字、と、ま、事、と、は、日、波、よ、ひ、也、  
ニ、字、よ、ひ、と、下ノニ、字、と、ま、同、江、口、志、主、と、着、ニ、  
ア、更、リ、も、ひ、と、下ノニ、字、と、し、也、
- 一 觀世、道、え、ま、白ノニ、字、と、ま、事、何、レ、も、注、て、と、ひ、也、  
上ノニ、字、を、持、ッ、て、ハ、下ノニ、字、を、重、く、空、し、も、下、上、  
の、二、字、と、ま、ま、ん、ま、ま、ん、ハ、下ノニ、字、を、持、くる、下、上、と、切、  
つ、ま、し、め、た、ま、つ、く、中、ニ、上ノニ、字、つ、て、注、は、ま、ま、の、二、  
字、と、ま、で、何、く、ま、と、も、と、と、注、又、想、こ、と、斗、ま、ぬ、ま、ハ、  
事、中、ニ、春、實、秋、文、の、ま、き、り、也、
- 一 音、阿、彌、ま、文、字、の、ま、別、も、ハ、事、所、要、と、ま、事、當、し、  
ぬ、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
一 善、信、と、ま、ま、事、 伯、母、持、十、三、三、深、ま、ま、月、の、花、









一 憂備を別位を考ふる處に合可位ト一人の位ニ入  
ルツ思に及トテノ及ト改ニ事ナト思ヨリ可位

一 蘭世事ヲ別位の大位向古世蘭世ハ理リ知ヤルハ我  
ハ我ハ得テ意の外ニシテ不意位不可得ト云々を云ふ是位  
ニツク記世位ハ侍テハ宣テテム若ノ根ノ位トヘテ合  
具ニシテ及位ノイロ、ナカラカキハノタメニアラハ知スヘシ  
継久しくはタル心ト云セノハ有ニシ兆スナキニシ兆ス中向  
モ兆ス親シハ少シト、コホリナクモ念モ相ニ信セシメ爲  
是ツク分ト云理神又及得テ云々志可禪師之ハツト  
トル、更ニ不可得シ宣シヤ世乱世ノ得心モ甚速ハ世を同  
ト云スハハ祝言ニモ味ス速云々モ云ヨリ甚速ニモ速ク  
ナシハ云々一書ト云ハ何シノ意モ豫中ニ云ヨリテ自由云々

ゆ也カシハ、其位蘭曲成能人又云云ツクテソシク  
往ナス也彼一心ノ伸悦モ云モナク、能モ、空(寂)成ハ  
ラハ皆有テ云々毎トノミハ得コソ法ニシテ其空理ヨリ  
佛を祖師モ化生シテ然レ給テ果ハ内外ノ妄念晴タル以  
ヘシ一取一切消ト云モ世道。云ハ祝言ノ音聲云々正正風神  
ヨリ云々ハ皆悉成能ス云々當時ハ祝言ヨリハマ礼世ニ成ノト  
テ花侍、妙ニミテ、又世間ハハ祝言ニモナラス妙ヨリ能曲  
ナリトノミ覺テ種ノ云

水泉院御奇

そのいふまゝは通て云々て是のうのまゝ云々や彼ノ入りサレ  
ハニニカス成(一切)瑞珠塵法道ニナクテハ叶ハス云々  
御奇(云々)





かたし三つとせえまうひとまは未文をあらひりかひ自由曲の  
ふりけはあぢやりの一をいしと後むよんをの  
のきくゆるくまよはまこ十ツカにヨシ文分文をいふ  
入らぬしつりきせしるくわくと註まよふまの曲や  
んこのほのこをいふむふせしと題こく五番を能心得て  
時長乃京凡あそこのナ丁人うきまよふの曲と身の意三  
ツを同志う後行はんこと一をハ重なる可申候  
是の道後いさ書えり

- 一 楽曲の志をあらひか事しつくをを来よひらうや
- 一 一ツコトハ遊のや一曲を拜はよとこのや一
- 一 註ハ初と秘つよ包くゆるやい
- 一 一ローノ位はキヨシヤウ平色コラカレツナラウツとへ

十神を風姿むる一の

才一 祝言 上果 老神 相生在 色ふ神

思ふよみとくふ人のまろくんあふせしそふ月ささやけき

才二 国文 上果 女神 慈や まつ囃の女

こり人仮をを海きてゆめは社をいしとてくれ

才三 恋慕 見こ 松風 秋の夕を出

消泥ぬらうみ人の秋のまよ方を木柱のまのト云

才四 哀傷 小野小町 也の哀歌

あふこころ秋の小花風吹つあ〇あうし人のまよ見てつ

才又(園曲) 蟻通忍を老翁く(神) 才又(一)

才六 藤原 大原少将

才七 白河 院

才八 藤原 院

才九 藤原 院

才十 藤原 院

才十一 藤原 院

才十二 藤原 院

才十三 藤原 院

才十四 藤原 院

才十五 藤原 院

才十六 藤原 院

才十七 藤原 院

才十八 藤原 院

才十九 藤原 院

才二十 藤原 院

才二十一 藤原 院

才二十二 藤原 院

才二十三 藤原 院

才二十四 藤原 院











(ハカシ山に入すりて言ひとす)

一 養傳乃す。有るのみ年一して難波論議して十又  
一 して師とつれとて。休めしむ。及び其弟の心持お  
りは。て世をばとて。たのむ。又三伴の他を調子  
とて。言ひとす。

一 難と難。何たり。一 其上。信ハ然の心を信かり。一 相  
形。とて。年とる。信の。一 也。難。とて。言ひとす。

一 信より。一 信。て。信の。一 是。是。是。是。一 難。の。一  
命。也。とて。言ひとす。

一 老女にて。一 南寺。き。百。年。の。境。を。こ。つ。い。つ。よ。き  
ゆ。ち。り。一 一。小。所。と。も。は。幸。す。は。信。ハ。相。能。く。く。  
こ。ち。ハ。更。寺。は。何。たり。相。能。く。も。ま。よ。ち。り。て。ハ。マ。ミ

一 たるもの。一 也。別。相。能。く。一 弁。と。讀。信。を。化。り。さ。教  
を。引。相。能。く。も。ま。よ。ち。り。一 信。分。く。一 其。文。白。と。り  
か。い。つ。り。二。者。と。り

一 曲。并。て。論。議。一 成。又。古。信。多。多。一 難。と。り。て  
心。い。そ。く。一 誘。き。也。ま。ま。も。信。分。く。も。也

一 つ。信。保。し。一 小。信。の。信。一 一。て。必。り。信。と。り。く。相。能。  
く。い。か。る。く。信。一

一 眼。乃。ん。お。あ。く。も。り。ハ。あ。ま。ま。の。信。き。な。ら。ん。一  
信。よ。老。一 一 老。ね。る。と。い。う。に。と。志。と。ん。に。信。し

一 一。一。分。同。ノ。信。大。事。也。信。の。習。よ。も。信。り。ゆ。ふ  
老。ね。る。あ。れ。と。信。た。ぬ。と。も。其。信。と。ハ。大。キ。信。言。し  
一 信。き。る。よ。も。と。信。ま。つ。一 信。の。文。を。信。す。一 信。の。信

道なき世に先づまを習ふを連歌とをいふをい  
文の有りハ叶ハぬ筆まきや文字あつり言の音世ハみ  
ち大和とPとつと末合思とありのPはえと大  
さく一とまにさうはしく飯後見と中の中  
書ぬさゆちのちとまに井とまきと見合ふま  
と二ぬかるとまのまをせ

五二巻

延寶八<sup>ノ</sup>庚申 小春 上段 一<sup>ノ</sup>二

下段 五二巻